

東久留米市立第三小学校 第1学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 促音や拗音、長音を正確に書くことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 促音や拗音の学習時間を確保するとともに、視覚化や動作化を取り入れながら、指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が正しく表記できるようにする。(ノート、ワークシート) ○
	<ul style="list-style-type: none"> 主語、述語、会話文などを用いながら、文章を書くことについては個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 三小日記や国語の授業時間を活用しながら、主語、述語、会話文などを用いた文章を書く機会を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割程度の児童が会話文を用いて文章を書けるようにする。(ノート、ワークシート) ○
算数	<ul style="list-style-type: none"> 10以上の数のたし算とひき算の計算が正確にできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的に理解できるように、おはじきやブロックの操作をしながら、計算していくよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 9割以上の児童が正確に計算できるようにする。◎
	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、たし算とひき算の判断が正確にできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面絵を使いながら、情報を整理して問題を解いていく。 十分に考える時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が正しく演算決定できるようにする。(ノート、ワークシート) ○
生活	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や社会との関わりについて気付いたり表現したりする力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動のねらいを明確にし、気付いたことを全体で話し合う場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割程度の児童が、気付いたことを発言したりカードに書いたりすることができるようにする。(ワークシート、学習カード、発言) ◎
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの技能については個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤の拡大図を活用したり、音階に印を付けたりしながら取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での様子や定着度を個別にチェックして見取る。 ドからソまでの音を使った簡単な曲を全員が弾けるようにする。○
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 用具の扱い方や慣れについては個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具の扱い方については、段階的に繰り返し取り組めるように、題材や活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が基本的な用具の扱いに十分に慣れているようにする。○
	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージをもったり表し方を工夫したりすることが苦手な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品に取り掛かる前に、題材や表し方について話し合いを設定し、イメージをもちやすくする。 表し方を工夫している児童の作品を全体で紹介し、工夫の仕方を広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割程度の児童が抵抗なく作品作りに取り組めるようにする。(作品、活動中の様子) ◎
体育	<ul style="list-style-type: none"> マット遊びや器械・器具を使った運動遊びにおける技能の差が大きい。(手や足の使い方) 	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップで段階的に指導していく。 相互の教え合いの時間を取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 前転がりができる児童が8割を超えるようにする。(活動中の様子) ○

平成30年度 授業改善推進プラン

特別の教科 道徳	・道徳的諸価値についての理解はできるが、多面的・多角的に考えたり、自己の生き方について考えたりする力が弱い。	・発問を工夫し、多面的・多角的に考えたり自己を見つめたりする学習活動を設定する。	・自分の考えを表現できる児童が8割以上になるようにする。(道徳ノート)○
-------------	--	--	--------------------------------------

東久留米市立第三小学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を正確に書けない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の指導を1日に1文字のペースで行い、漢字テストの前に宿題プリントで復習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の漢字テストの変容を見る。 9割の児童が漢字テストで90点以上取れる。○
	<ul style="list-style-type: none"> 音読の際に、声が小さい、はっきりと発音できない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> よい姿勢で、はっきりと発音できるように、丸読みをするなどして、一人一人を指導する時間をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 丸読みや音読発表会などをして、一人一人の音読を聞く時間をとる。 9割の児童が、大きな声で音読できる。○
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な考え方の問題を苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で様々な数学的な考え方の問題を解く機会を設定する。 数学的な考え方の問題を解説する時間を確保し、繰り返し、問題演習に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の最後では、必ず数学的な考え方を必要とする問題を解かせる。 9割の児童が、単元のまとめのテストで80点以上取れる。○
生活	<ul style="list-style-type: none"> 自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考えることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 町探検などの学習の振り返りを学級全体で共有し、関わりが考えられていなかった児童にも何か当てはまることはないか考えさせる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードで全員が自分との関わりで考えたことを記述できるようにする。○
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> タンギングの仕方や、指使いを繰り返し指導する。ゆっくりと練習する時間をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲ごとにテストをする。 全員が鍵盤ハーモニカで演奏する曲が吹ける。○
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 作品の制作途中で意欲や丁寧さがしぼんでしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> よいところや他の児童に参考にしてほしいところを制作途中でも全体に紹介する時間をとる。 児童が工夫したところを具体的に褒め、意欲を維持できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が自分の工夫を加えて、作品を完成させる。○
	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの工夫や想像力を膨らませることについてまだ難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> イメージを膨らませるために作品作りに取りかかる前にペア等の話し合い活動の時間を設ける。少しでも表現できた児童を褒めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動で、全員が発言できる。○
体育	<ul style="list-style-type: none"> 鉄棒や登り棒、ボールを使った運動を苦手とする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 易しい動きから始め、誰でもできて楽しめる活動を取り入れる。動きの工夫ができるような時間や場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割の児童が逆上がりができる。● 8割の児童が登り棒で上まで登れる。○ ボール投げゲームの前に、毎回ボールを投げる練習を取り入れる。

平成30年度 授業改善推進プラン

特別の教科 道徳	•自分の考えを言える児童と言えない児童の差がある。	•隣同士で話し合う時間を取り、道徳の時間に全員が一度は発言できるようにする。また、ワークシートに書く、板書を見て考える時間を取り、自分の考えを深められるようにする。	•1時間の授業の中で、全員が一度は自分の考えを述べる。○
-------------	---------------------------	--	------------------------------

東久留米市立第三小学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年末に定着を図るテストをして、更に定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回のミニテストで、70%の児童が8割正答する。○
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを文章に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に2～3回100マス作文に取り組ませる。5分間で100マスを書く活動を取り入れる。 教室に常に掲示し、書き方のヒントにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3月までに7割の児童が100マス作文を5分で書ける様にする。◎
社会	<ul style="list-style-type: none"> 読み取る力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 図や表からどんなことを読み取るのか明確にし、印やメモをする活動を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 5分間で図や表から分かることをノートにまとめる。7割以上の児童が正しく読み取る。◎
	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことや自分の考えを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの活用や交流だけでなく、事実と自分の考えを分けるなどの条件を取り入れた新聞作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 3月までに7割の児童が課題にあった自分の考えを表現する。○
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算の力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に2～3回朝学習として100マス計算を取り入れる。 足し算引き算は5分、かけ算は4分以内を目指す。 行ったものをファイリングし、児童に達成感を味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 5割の児童が学年末までに目標時間を達成できるようにする。○
	<ul style="list-style-type: none"> かけ算の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 家で毎日かけざんカードの課題に取り組ませる。 教室でもかけざんを折に触れて取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 100マス計算の結果について、学期ごとに最高記録をチェックする。○ 5割の児童が学年末までに活用できるようにする。○
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察や記録は2回または2つの物を対象に行い、その変化や違い、共通性に着目させ、比較して考える習慣を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3月までにクラスの全員が2つの事象を比較した気付きや考えが書ける様にする。（観察、記録のカード）○
	<ul style="list-style-type: none"> 観察の気付きなどを具体的に書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察で見るべき視点を予め与えて、観察に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 80%の児童が見るべき視点での気付きを書ける様にする。（記録のカード）○

平成30年度 授業改善推進プラン

音楽	<ul style="list-style-type: none"> 表現活動が独りよがりになり、友達の演奏を聴いて合わせる事が難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小グループで演奏を合わせたり、互いの表現のよさに気付いたりできるような活動に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が演奏を合わせ、友達の表現のよさに気付くようにする。(鑑賞カード、演奏の聴取) ○
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に道具は自由に使えるが、正しい使い方、基本的な使い方が身に付いていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具を使う場面では、正しい使い方を身に付けさせるために、指導者が使い方の見本を示し、確認させてから練習する時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が正しく道具を扱えるようにする。(作品、作品の作成過程、鑑賞の態度や発言) ○
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を見付ける力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の課題を用意し、自分の力にあった課題を選ばせる。周りの良さを見付け、まねできる所を探させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 80%の児童が課題に取り組む理由を書ける様にする。(学習カード) ○
	<ul style="list-style-type: none"> 他人の動きから学ぶことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> モデルになる児童の帽子の色を変えて、意識しやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 80%の児童が、意識すべき動きを具体的に書ける様にする。○
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもつことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ネームカードで意思表示をしたり、ワークシートに記入する時間を確保したりして自分の考えをもつことができる活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3月までに8割の児童が課題に合った自分の考えをもつ。(ワークシート、発表) ◎
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 価値に対する考えを深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちを問うような発問を減らし、価値やテーマに関する発問につながるような授業展開にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 9割以上の児童が価値についての考えをもつ。(ワークシート、発表) ○
	<ul style="list-style-type: none"> 日本と外国の生活や習慣、行事の違いを知り、多様な考えに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国の行事を紹介する。クラスに在籍する外国籍の児童にインタビューするなどして自国と他国の様々な違いに触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3月までに8割の児童が簡単な語句を聞き取り、基本的な表現の意味が分かるようにする。(振り返りカード、活動の様子) ○
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、どのように調べるか、様々な方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の使い方やパソコンでの検索の仕方をチーム・ティーチングで学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 6割の児童がローマ字表を見ながらPCで検索が出来る。(ワークシート、発表) ◎
	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを協同してまとめ、様々な相手に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生のクラスごとに発表し合ったり、下学年、保護者などに向けた発表をさせたりする中で、自分たちの伝えたいことをどう伝えるか工夫させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3月までに8割の児童が形式に基づいて発表できるようにする。(ワークシート、発表、発表の様子) ○

東久留米市立第三小学校 第4学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章の中で漢字や言葉を正しく使うことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> テストだけでなくノートや日記、ワークシートの中でも正しい言葉や漢字を使えるよう指導していく。 毎週の日記タイムを継続的に行い、互いの作品を相互に読み合う活動も取り入れ、表現の仕方を相互に高めていく 	<ul style="list-style-type: none"> 7割の児童が8割以上の正答率になるようにする。○ 書いて表現することに苦手意識をもつ児童をゼロにする。○
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや意見を的確に話して伝えることに苦手意識がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に話す機会を設け、その際、良い点を褒め、励ましながら、苦手意識を払拭する。 児童相互の感想や意見の伝え合いを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや意見を話して伝えることに苦手意識がある児童を2割以下にする。○
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料やグラフの効果的な読み方や使い方が難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で地図や資料を扱う場面を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表を見て分かることを7割以上の児童が正しく答えることができるようにする。●
	<ul style="list-style-type: none"> 自分達の暮らしと学習内容とを結び付けて考え、深めていくことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で映像を取り入れたり見学や出前授業を多く取り入れたりしていく。 地図や資料を大型テレビに映し、気付いたことや活用方法について話す。 	<ul style="list-style-type: none"> 見たこと、聞いたことをノートや新聞にまとめさせる。学年末には、8割以上の児童が2時間程度で資料をもとに新聞にまとめることができるようにする。○
算数	<ul style="list-style-type: none"> 掛け算、割り算の計算はできるが、問題文から正しく立式することを苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章題の大事なポイントに線を引いたり図に表したりさせて、題意を捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期、ワークテストの実施時に正しく立式できているかを見る(正しく立式している子70%以上)。○
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察は楽しんで行うが、それらを文や絵、図を使って表現することが不得手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察カードやノートの書き方を丁寧に指導するとともに良い書きぶりの物を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して観察している植物のカードは、学年末に向けて個々の書きぶりが向上しているようにする。学年末には、8割以上の児童が視点をもって観察や実験のまとめができていくようにする。○
	<ul style="list-style-type: none"> 理科的な物の見方をするこになじみが少ない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で自然や物質、エネルギー、天気や月、星などの話に触れさせ、興味・関心を引き出す。専門機関の見学や出前授業を率先して行う。 理科的読み物を進んで読む姿や学んだことをさらに追究する姿 	<ul style="list-style-type: none"> 理科的な事象や出来事、読み物に関心をもつ児童が8割以上になるようにする。◎

平成30年度 授業改善推進プラン

		を増やし、それらを褒め、広げていく。 ・理科見学や出前授業を多く取り入れる。	
音楽	・楽器演奏の技能が不十分で、自分の思いや意図をもって表現することが難しい児童がいる。	・スモールステップを踏んだドリルや、小グループでの教え合いなどで技能の習得ができるようにする。	・8割以上の児童が演奏の技能を習得できるようにする。(活動の様子、ワークシート、演奏の聴取) ○
図画工作	・道具の基本的な使い方の知識が不十分で自分の思うような表現ができない児童がいる。	・用具に十分に慣れさせながら、基本的な扱いができるように指導する。	・8割以上の児童が正しく道具を扱えるようにする。(授業中の様子、作品、鑑賞の態度や発言) ○
体育	・適切なめあてが設定できなかったり、友達の動きを見て自分の動きに生かそうとしたりすることが苦手な児童がいる。	・教師が良い動きができている児童を見付けてモデル提示することを心がける。 ・学習ノートやカードに感想を書かせる視点を与えながら、良い動きを児童同士で見付けられるように仕向ける。	・適切なめあてを設定できる児童を8割以上にする。○ ・友達の動きを見て、よい動きやもっとよくするにはどうしたらよいかなどに気付く児童を8割以上にする。○
	・逆位の感覚がこわいと感じる児童が少数だけいる。	・ねこちゃん体操(マット運動)を継続して行い、体幹の支持や逆さ感覚に慣れさせる。	・全員がマットの回転技や跳び箱の回転系、切り返し系の基本的な技ができるようにする。○
科 特別の教 道徳	・自分なりの考えをもつことがなかなかできない児童が少数だけいる。	・話し合いの場面を増やし、友達の意見を聞いて自分の考えを深めるような授業作りを意識して行っていく。 ・道徳ノートを活用し、児童の考えを見取り、褒め、励ましながら実生活に生かしていく。	・自分の考えや意見を8割以上の児童が表現できるようにする。(道徳ノートや発言の様子、話し合いの様子) ○
総合的な学習 の時間	・コンピュータで文字を入力したりや辞書や図鑑で調べたりする際、時間がかかる児童が多い。	・ローマ字入力や辞書、図鑑等を使う場面を意識して多く取り、慣れさせる。	・学年末には、簡単な文字入力は全ての児童ができるようにする。●
外国語活動	・日本と外国の生活や習慣、行事の違いを知り、外国の文化に慣れ親しむ。	・映像資料、挨拶や外国文化、歌、チャンツを多く取り入れ、児童の興味・関心を引き出す工夫をする。	・学年末には、8割以上の児童が簡単な挨拶や単語が話せるようにする。○
		・簡単な単語や挨拶を毎回の授業で取り入れ、繰り返し使っていく。	・9割の児童が外国語を好きと言うようにする。◎

東久留米市立第三小学校 第5学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 構成を考えながら読んだり、伝えたいことを中心に考えながら読んだりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」単元に重点を置き、目当てを明確にする。 文章構成を丁寧に指導し、要旨となるところが分かるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が、構成を考えながら読んだり、伝えたいことを中心に考えながら読んだりできる。◎ (単元テスト)
社会	<ul style="list-style-type: none"> 基本的資料から情報を適切に取り取ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の見方を丁寧に指導する。また、読み取って分かったことをノートにまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が、基本的資料から情報を適切に取り取れる。◎ (ノート)
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な表現を用いて、事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉、数、式、表、グラフなど、多様な表現を用いて思考の過程や結果を読み取ったり、表現したり、説明したりする活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 7割以上の児童が、数学的な表現を用いて、事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりできる。○ (ノート、ペアやグループ活動の観察)
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験に意欲的に取り組もうとする意識を高めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験に入る前に目的を明確に設定する時間を取り、実験を主体的に行えるように個々で取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が、実験に意欲的に取り組める。○(発表の観察、ノート)
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲をどう表現したいのか、自分の思いや意図をもつこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞を通して様々な音楽を体感させ、音楽の幅を広げる活動や、表現するための技能の習得をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が、鑑賞と表現を通して思いや意図がもてる。○ (ワークシートの活用、演奏の聴取)
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> イメージを膨らませたり、想像したりして作品に生かすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な表現方法を体験させたり、手だけではなく五感や体全体を使ったりして伸び伸びと楽しく表現できるような題材を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が自信を持って表現活動を行える。(作品、授業中の様子、鑑賞の態度や発言)○
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な基礎的な知識、技能を身に付け、実践的な態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理、製作等の実習などの実践的・体験的な活動に計画的に取り組ませる。活動後には、必ず自分自身の生活を見つめる活動、振り返りの活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が、日常生活に必要な基礎的な知識、技能を身に付け、実践的な態度を養う。○ (ノート、児童の振り返り)
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の運動の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器や学習カード、掲示物などを活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせて課題を見付ける活動を取り入れる。 複数の練習方法や場の中から、自己や仲間の課題に適したものを選んで運動する活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が、自己や仲間の運動の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫できる。○ (学習カード)

平成30年度 授業改善推進プラン

<p>特別の教科 道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値について、児童が多面的、多角的に考え、自己の生き方にまでつなげて考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時で扱う道徳的価値をひとつに絞り、明確化して、ペアや少人数、学級での話し合う活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が、本時の価値についての考えの深まりや変容を書いている。○（道徳ノート）
<p>総合的な学習の時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを豊かに表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを発表する場を設け、相手意識をもたせてまとめたり表現したりする活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が、自分の考えを豊かに表現できるようにする。○（学習過程の振り返り、発表の観察）
<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が興味・関心を示すような自分のことや身の回りの物を題材として、ゆっくりはっきりと話された簡単な語句、事柄を聞き取る活動を取り入れる。 必然性のある場面設定で、ジェスチャーを交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す[やり取り]活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図れる。◎（学習カード、活動の観察）

東久留米市立第三小学校 第6学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の特徴や使い方を苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 語句と語句との関係、文の構成や変化について取り上げる際、主語、述語、修飾語などのカードを活用し、既習事項を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークテスト前に言語項目に関する小テストを実施する。（正答率80%を目標）○
社会	<ul style="list-style-type: none"> 歴史上の主な事象及び先人の業績について理解し、関連させながらノートにまとめることが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚資料を活用して理解を促したり、新聞作りや年表作りを行ったりし、キーワードを関連付けて表現する学習活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> キーワード（重要用語）の意味を理解しているか確認する。（単元末に確認小テストを実施、定着率80%を目標）◎
算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題において、適切に数量関係を捉えることができず、数直線や立式に表すことを苦手としている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の前に、文章中のキーワードを探す活動を取り入れ、分かっている数値や、問われている数について見つけさせる。 数直線や図を用いて、数量関係を表現させる活動に取り組みさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童自身が数量に注目してアンダーラインを引けるようになったか授業中における個別巡回。（目標値100%）◎ ノートに表現させ、それをもとに立式できたのか確認する。（目標値100%）◎
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験の見通しをもち、実験器具の操作手順を適切に理解して、取り組むことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験時における個々の役割分担を明確にし、自身の役割を認識して、実験器具操作の理解に対して必要感をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 器具の名称や操作手順を確かめる復習機会を設け、理解度を確かめる。（単元末に確認小テストを実施、定着率80%を目標）○
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、思いや意図をもって音楽を表現することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発声の仕方や表現するための共通事項を確認しながら、自信をもって歌えるように言葉掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が、思いや意図をもって歌唱表現ができるようにする。（表情観察、演奏聴取）○
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 友達と同じような発想をしたりイメージが膨らまず活動が止まったりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作りながらイメージしたり途中で変更したりしてもよいことを伝え、のびのび取り組めるように言葉掛けする。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が自信を持って表現活動を行えるようにする。○

平成30年度 授業改善推進プラン

家庭	<ul style="list-style-type: none"> 手縫いやミシン縫いについての知識及び技能が身に付いていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順を反復確認し、各個人が自信をもって行えるように指導する。TT体制を組み安全に配慮して指導にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が目的に応じて手縫いや、ミシンを用いた直線縫いで製作することができる。(目標値100%)◎
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学習課題、運動のつまずきを正確に捉えることができず、適した課題解決の選択ができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時のめあてを明確にし、意識する運動ポイントを絞って提示することで、活動の焦点化を図る。 ペアやトリオ学習を取り入れ、客観的な立場から課題を伝える場を設け、自己の認識と友達からの指摘を参考に、自分の課題を適切に捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業終末時に振り返り活動を行ったり、学習カードに課題を記入する欄を設けたりして、課題やめあてを適切に捉えていることができたか把握する。(目標値80%)◎
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをより深めるために、多面的に考えたり話し合ったりする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳ノートをより自由な形で活用し、自分の考えを表現する機会を設定する。 テーマに応じ、児童が考えを伝え、深めることができるよう言語活動を柔軟に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りから、それぞれの考えの変容を記録する。◎ ペアやトリオ交流を活用した言語活動を設定する。(年間20回以上)◎
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に外国語を用いて、自分のことを伝えることを苦手とする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ伝える内容をメモにし、十分に練習する時間をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 8割の児童が伝える内容メモを活用しようとしている。(ワークシート)◎
総合的な学習の 時間	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習において、探究的に問題を解決することが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習の学習手順を提示し、調べた項目を比較する、分類する、関連付けて考えるなどの技法を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての児童が問題解決に向けて、情報を関連付けて考えているか、学習状況を確認する。(ポートフォリオ)◎